



TeruTeru Newsletter

区長 山口照美の

てるてるだより

10月12日には「第51回港区民まつり」があり、各種団体・地域みなさんと交流をしました。雨が強くなり早めの閉会となったのは残念でしたが、みなさんにお会いできて嬉しかったです！

そして13日には大阪・関西万博が閉幕しました。港区には多数の万博スタッフの方が住み、「未来と世界にひらくまち・港区」を実感できた半年でした。区民まつりのご挨拶でお話しましたが、私たち

の万博は「これから」です。万博会場内外で受け取った、地球環境や高齢化・人権・平和といった「いのちが輝くために」解決すべき課題を一人ひとりの暮らしの中で意識してもらえると嬉しいです。特に、人生100年時代のヘルスケアについては新しい技術が多く展示されていました。健康寿命の延伸は、国際的な課題です。表紙でもお示ししていますが、特定健診・がん検診もぜひ受けてください！

そして万博会場での楽しさは、見渡せば港区にも大阪市中にも見つかります。「Beyond EXPO2025」は始まったばかり。こども達によりよい社会とまちを手渡せるよう、みなさんと力を合わせて港区を引き続き盛り上げていきます。



港区制100周年のお祝いも兼ねた港区民まつりへのご協力、そして万博開催までの機運醸成や美化活動・交通規制などご協力いただきありがとうございました。

「八幡屋・港晴・池島小学校 学校適正配置検討会議」を立ち上げました

港区では、令和6年1月に策定された「港区西部地域学校再編整備計画」に基づき、令和11年4月に八幡屋小学校・港晴小学校・池島小学校の3校を統合し、八幡屋小学校の校地を使用して新たな小学校が開校します。この統合に向けて、保護者や地域住民の代表の方々をメンバーとする検討会議を立ち上げました。10月2日(木)開催の第1回会議では、通学路を先行して検討したところですが、今後は学校名・校章・校歌等の検討も順次進めてまいります。

詳しくは、港区ホームページをご覧ください▼



問合せ 協働まちづくり推進課(教育・人権啓発) ☎ 6576-9975 FAX 6572-9512 minato-edu@city.osaka.lg.jp

garage BENTEN

入場無料

— 世界に向けて
港区の町工場を発信！ —

クラシックカーをもう一度走らせたーい。
港区町工場の技術を集結し、挑みます。
当日は約20台のクラシックカーも勢ぞろい！



日時 11月9日(日) 10時30分～17時
場所 べんてんひろば(JR弁天町駅東側)
主催 大阪市高速電気軌道株式会社
共催 イノベーションポート200
西日本旅客鉄道株式会社

問合せ Osaka Metro・シティバスお客さまセンター
☎ 050-3355-8208 (8時～20時・年中無休)
info.garagebenten@gmail.com

オンデマンドバスの社会実験が始まりました！



期間限定運行に引き続き、10月28日(火)から港区内でOsaka Metro Groupオンデマンドバスの社会実験が始まっています(令和8年10月27日までの予定)。
オンデマンドバスは**決められたルートや時刻表が無い予約型の乗合バス**で、ご希望の時間や乗降場所を事前に予約いただくことでご乗車できます。

目的地までの移動が便利になりますので、区民の皆様ぜひご利用ください！
※3日前から予約可能

運行時間帯 9時～19時

運賃 【大人】210円 【小児】110円
【幼児】同伴者1名につき2名まで無料
(3人目からは小児運賃)

予約方法 ①eMETROアプリ ②LINE
③電話 ☎ 050-3355-8210 (7時～17時)

問合せ Osaka Metro・シティバスお客さまセンター
☎ 050-3355-8208 (8時～20時・年中無休)



運行エリアや乗降場所など詳しくはコチラ



iOS

Android

オンデマンドバスのご利用にはeMETROアプリが便利です

港区の歴史を 振り返る番組が 放映されます！

ケーブルテレビ・ベイコム(11ch)の人気番組「歴史街道」で区制100周年を迎えた港区が紹介されます。区内在住の落語家・桂福丸さんがナビゲーターを務め、昔の賑わい、災害・戦災からの復興、土地区画整理事業から現在の繁栄にいたる港区の歴史と魅力がギュッと詰まった番組となっています。ぜひご覧ください！

放送予定日時
11月1日～15日の月曜日9時15分～、
火曜日7時15分～、水曜日6時30分～、
木曜日15時15分～、土曜日19時30分～、
日曜日18時～



※画像は『毎日新聞大阪社会事業団五十年史』より



監修 陸奥賢さん
観光家/
コモンズ・デザイナー/
社会実験者

「浮かぶ大病院」
巡回病院船・慈愛丸の
栄光と最期
昭和2年(1927)、大阪市港区南福崎町の占部造船所で巡回病院船・慈愛丸が竣工しました。当時は水上生活者が非常に多く、市内の河川を病院船で巡回することで、より多くの大阪市民の福利厚生に貢献できると大阪毎日新聞慈善団が考案したものです。内科、外科、眼科、小児科、耳鼻咽喉科の診療室にレントゲンまで兼ね備え、当時最先端の「浮かぶ大病院」でした。木津川河畔や道頓堀、中之島、長堀川などを巡回し、年間約1万人以上が利用し、昭和9年(1934)の室戸台風でも3500名以上の傷病者を手当して活躍しています。市民に愛された病院船でしたが戦争の激化で軍事優先の時勢に抗えず、昭和14年(1939)に処分されました。